

2-1 将来都市ビジョン

(1) まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念

城下町と自然と人が共生する暮らしやすいまちづくり

市街地づくりのテーマ

～未来につなぐオールド&コンパクトシティ～

郊外地域づくりのテーマ

～山の幸・海の幸と共に暮らす豊かなナチュラルライフ～

杵築市は、「坂道の城下町」として他都市にはない特性をもっています。また、別府湾に面し、緑豊かで温暖な住みやすい都市です。

私たちの暮らしは、21世紀という新しい時代を迎え、さらに便利で豊かなものとなり、特に自動車の利用を中心とした暮らしに大きく変化してきています。

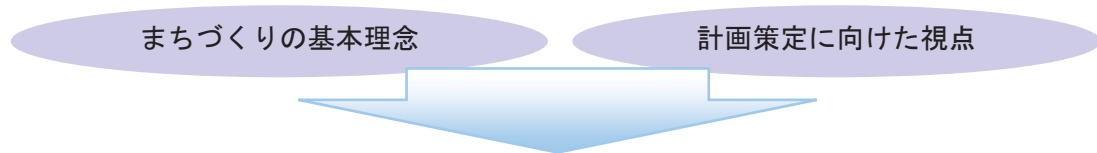
一方、市街地の無秩序な拡大は徒歩生活圏内の利便性を低下させ、厳しい財政事情が続く中、投資効率の低下は都市基盤整備の推進を阻むこととなります。今後加速する超高齢社会への対応、安全で暮らしやすい都市基盤形成の推進のためにも、歴史と共存するコンパクトな市街地づくりを進めることが重要となってきます。

また、郊外地域においては、森林、ミカン畑、田園地帯、そして川と海など豊かな自然をできる限り今のまま保全し、集落の生活環境については必要な整備を積極的に進め、これらの豊かな自然とそこでの生活と共に持続可能な地域づくりが重要です。

これらを踏まえ、杵築らしさのあるまちづくりを推進するため、「城下町と自然と人が共生する暮らしやすいまちづくり」を基本理念に、「未来につなぐオールド&コンパクトシティ」を市街地づくりのテーマに、「山の幸・海の幸と共に暮らす豊かなナチュラルライフ」を郊外地域づくりのテーマに掲げます。

(2) まちづくりの目標

まちづくりの基本理念、計画策定に向けた視点を踏まえて、まちづくりの目標を設定します。



— コンパクトなまち・暮らしやすいまち

コンパクトで道路・公園・下水道等の充実した市街地づくりと同時に、自然に囲まれた暮らしやすい郊外地域づくりを推進します。また、市内各地域の持つ多様な機能を最大限に活かし、地域の果たすべき役割を明確にするまちづくりを目指します。

— 自然の恵みを満喫できるまち —

杵築市には恵まれた自然があります。そこから受ける恩恵は新鮮な食物だけでなく、故郷を感じる美しさ、憩いの場など、市民にゆとりやうるおいを与え生活を豊かにします。この自然をできるだけ本来の姿のまま守り、育て、人々の暮らしと共存するまちづくりを目指します。

— 歴史文化と共生するまち —

古い歴史文化を大切にしてきた杵築市は、これらの貴重な財産と市民の暮らしが一体となっこそ、その価値を高めることができます。市内の歴史的資源を大切にしながら生活基盤の充実を図り、誇りに思える魅力的な生活空間の創造を目指します。

— まちづくりに手をとるあうまち —

市民の生活と歴史遺産の保存の両立を図る杵築市のまちづくりは、行政と市民、さらには市民同士が手をとって進めなければなりません。幅広い交流や体制づくりなど、まちづくりへの意識・参加を一層強めるまちづくりを目指します。

— 「歩き」の空間を大事にするまち

落ちついた町並みや静かな佇まいをみせる里山など、杵築市には人々が懐かしさを感じる空間が随所にあります。これらの「歩き」の時間の流れに身をおくことによって得られる空気・景色・音などを大事にしたまちづくりを目指します。

2-2 将来人口の目標

計画の目標年次、平成42年（西暦2030年）における目標人口を以下の通り設定します。

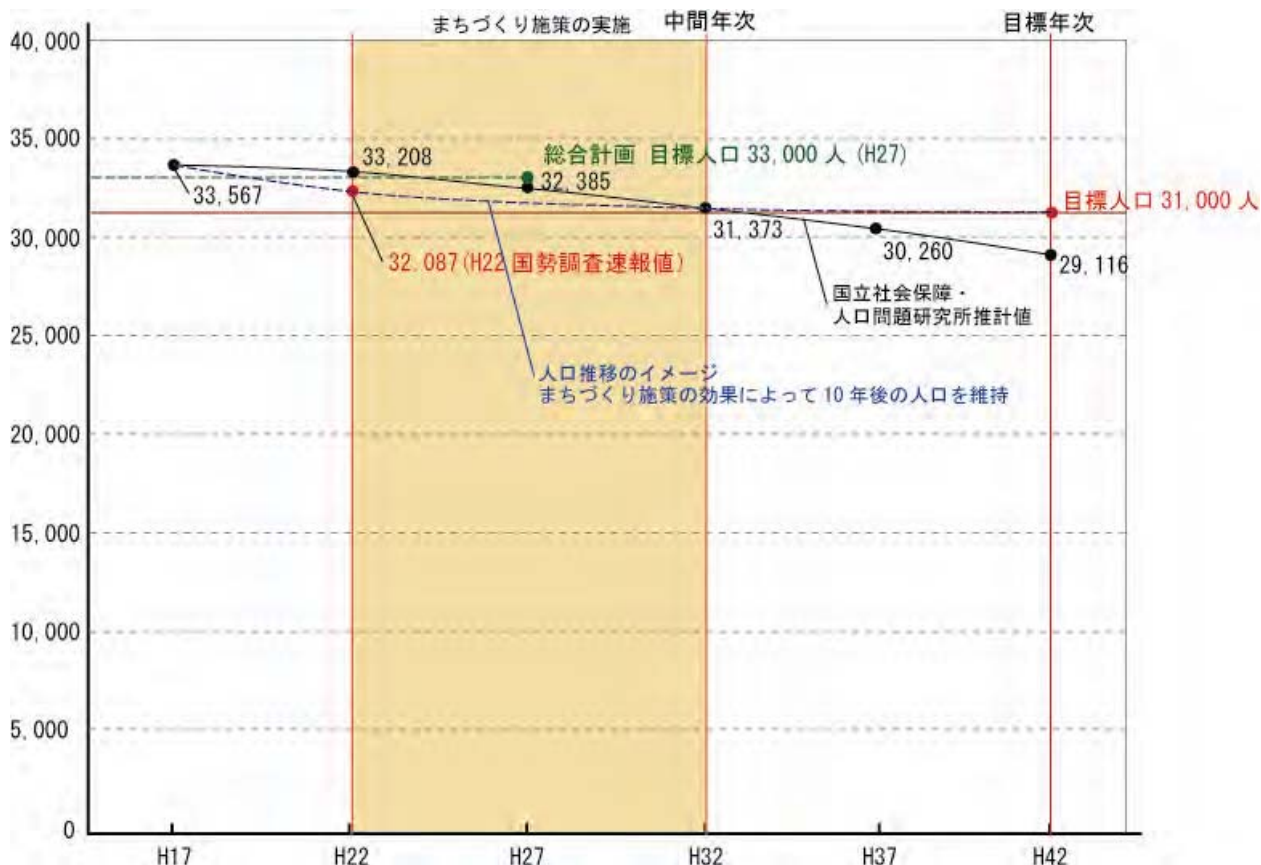
平成42年(2030年)の目標人口
31,000人

参考値 杵築市総合計画：33,000人(H27)

平成19年4月に策定された総合計画では、コーホート要因法による将来人口の推計において、平成22年度に33,400人、平成27年度に32,707人、高齢化率30.3%という結果に基づき、平成27年の目標人口を33,000人と設定しています。

しかし、平成22年の国勢調査速報値によれば、社会情勢の変化による産業活動の低迷を受け、既に目標人口の33,000人を下回っており、国立社会保障・人口問題研究所が推計した本市の推計人口33,208人と比較しても大きく異なっています。

このため、本マスタープランでは、今後10年間で様々なまちづくり施策を展開し、まちの魅力を向上させることで、平成32年の推計値31,373人を維持することを目指し、平成42年の目標人口を31,000人と設定します。



2-3 将来都市構造

(1) マクロ都市構造

① 広域都市圏の圏域構造

別府湾広域都市圏の将来像

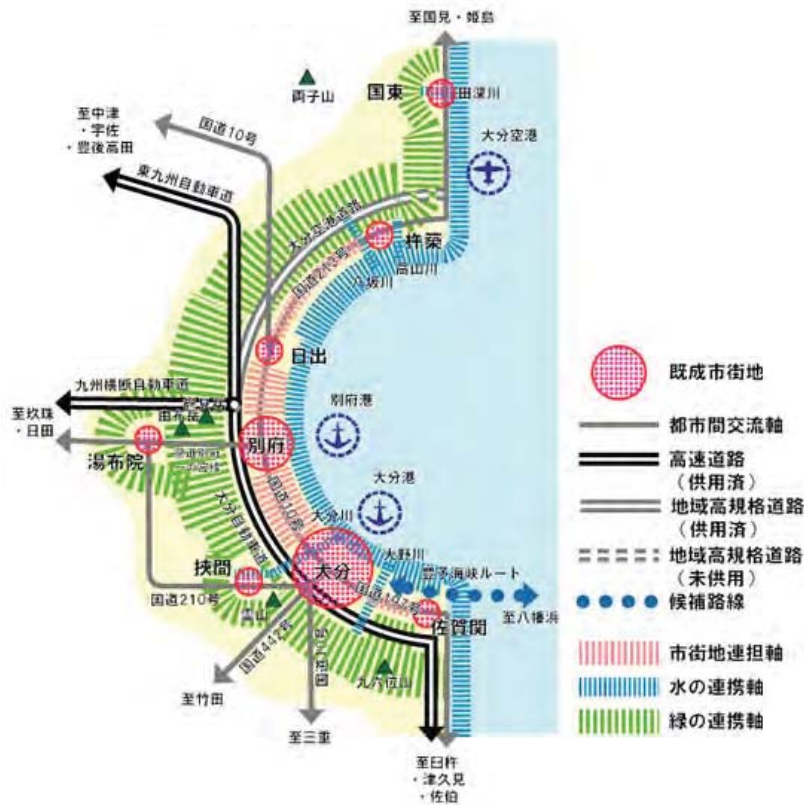
「人がつながる、自然がつながる、活力が満ちる、かがやきの湾岸都市圏づくり」

◇ 別府湾とこれを取り囲む山並みと一体となった美しく活力のある都市圏づくりを目指します。

◇ 多様な都市機能と魅力ある資源のネットワークづくりを目指します。

杵築市は、別府湾広域都市圏の中で職住近接の多様なライフスタイルの実現を可能にする生活都市圏の形成を図っていくことが位置づけられています。

別府湾広域都市圏の圏域構造図



資料：大分県都市計画区域マスタープラン

(2) 杵築市の将来都市構造

広域都市圏の圏域構造、杵築市の将来都市ビジョンを踏まえ、地域における機能分担を示す4つのゾーンと、都市づくりの骨格となる拠点、軸によって構成される全市的な将来都市構造を設定します。

① ゾーニングの設定

杵築市における機能分担を明確化し、地域の特性に応じた個性的で魅力的な生活空間を実現するため、市内を次のとおり4つのゾーンに区分します。今後の整備または保全の施策展開にあたっては、このゾーニング設定を尊重し、各ゾーンで求められる機能に見合った展開を進めます。

◆ 都市生活ゾーン

既存の都市機能の集積がみられる既成市街地を中心として、都市生活ゾーンを配置します。このゾーンでは、住む、働く、憩うなどの都市的生活を充足する役割を果たし、快適で魅力的な生活環境の形成を図ります。

◆ 近郊生活ゾーン

都市生活ゾーンに隣接するJR杵築駅の周辺地域には、近郊生活ゾーンを配置します。このゾーンでは、鉄道駅や幹線道路、または中核都市別府・大分との利便性を活かし、住居機能、商業業務機能、農業生産機能など、多種の機能が調和した空間を目指します。

◆ 緑地環境ゾーン

市北部の山地一帯に緑地環境ゾーンを配置します。このゾーンでは、両子山から続く斜面山地の特性を活かし、自然環境の保全を基本に、農林業の振興とこれに調和した環境形成を進めます。

◆ 海辺保全・活用ゾーン

守江湾を臨む海岸部とその周辺一帯に海辺保全活用ゾーンを配置します。このゾーンでは、海の持つ特性を活かし、レクリエーション、リゾート、快適な住宅、漁業、医療福祉など、健康をテーマとした地域活性化を進めます。

② 拠点・軸の配置

杵築市の都市の骨格を形成する拠点・軸について以下の通り設定します。

【拠点】

◆ 都市中心拠点

旧城下町、北浜・塩田地区を含めた杵築市の中心市街地については、行政機能、商業・業務機能の集積する都市中心拠点として位置づけ、杵築市の顔となる整備を推進します。

◆ **都市のサブ拠点**

J R 杵築駅周辺については、その利便性を活かした中心市街地を補完する都市のサブ拠点として位置づけ、杵築市の玄関口としての整備を推進します。

◆ **地域中心拠点**

山香地域や大田地域の庁舎周辺については、地域住民の日常生活を支える地域中心拠点として位置づけ、既存ストックを活用した住民サービスに必要な施設の充実と拠点間ネットワークの強化を推進します。

◆ **生活拠点**

郊外地域において、学校や公共サービス施設等が集積し、家屋等が集積する地区については、生活拠点として位置づけ、都市中心拠点との機能分担を図りつつ、地区住民の日常生活を支える都市機能の配置を推進します。

◆ **工業拠点**

市内に点在する工業団地や大規模工業地を工業拠点として位置づけ、各拠点との連携強化や幹線道路の整備を図り、企業にとって魅力のある工業地の形成を推進します。

◆ **水産拠点**

水産加工業が集積する泊地や漁港周辺を水産拠点として位置づけ、水産業を支える漁業基地として、各拠点との連携強化や幹線道路の整備による効率的な産業活動を推進します。

◆ **緑の拠点**

中心市街地にある総合公園をはじめとした大規模な公園・緑地については、緑の拠点として位置づけ、レクリエーション機能の充実と連携強化を図ります。

【軸】

◆ **広域都市軸**

自動車専用道路である宇佐別府道路と日出バイパス、大分空港道路は、大分空港や九州各地との広域的な都市活動を連携している軸であることから、広域都市軸として位置づけ、各インターチェンジへのアクセス性の向上と周辺の土地活用を推進します。

◆ **広域連絡軸**

日出町と大分空港や国東半島を結ぶ国道213号および県道藤原杵築線は、多くの通過交通が見込まれることから、杵築市の骨格を形成する広域連絡軸として位置づけます。また、国道10号と主要地方道大田杵築線は、都市中心拠点と地域中心拠点を結ぶ広域連絡軸として位置づけ、道路機能と連携の強化を図ります。

◆ **産業軸**

都市中心拠点と各産業拠点を結ぶ路線については、産業軸として位置づけ、円滑な交通移動を確保するための道路整備を推進します。

【参考】拠点の定義

| 拠点の種類 | 拠点設定の根拠 | | |
|---------|---|---|--|
| 都市中心拠点 | 旧城下町、北浜・塩田地区を含めた中心市街地は、行政機能、商業・業務機能の集積する本市の都市の中核であることから、都市中心拠点として位置づける。 | | |
| 都市のサブ拠点 | ＪＲ杵築駅周辺は、中心市街地に近接した本市の玄関口であり、中心市街地を補完する場所となることから、都市のサブ拠点として位置づける。 | | |
| 地域中心拠点 | 山香や大田は、中心市街地へのアクセス性が悪く、地域住民の日常生活における公共サービス確保が必要であることから、地域の中心的場所である庁舎周辺を地域中心拠点として位置づける。 | | |
| 生活拠点 | 郊外地域で学校や公共サービス施設等が集積し、家屋等が連たんしている地区については、生活拠点として位置づける。 | | |
| | 地区名 | 公共公益施設 | その他関連施設 |
| | 守江地区 | <ul style="list-style-type: none"> ・護江小学校 ・守江幼稚園 ・ひまわり総合ケアセンター ・守江郵便局 | <ul style="list-style-type: none"> ・バス停 ・泊地 |
| | 片野地区 | <ul style="list-style-type: none"> ・東地区公民館 ・東小学校 ・東幼稚園 ・杵築東郵便局 | <ul style="list-style-type: none"> ・泊地 ・大規模団地 ・バス停 |
| | 奈多地区 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊洋小学校 ・豊洋幼稚園 ・奈多八幡簡易局 | <ul style="list-style-type: none"> ・バス停 ・奈多公園 ・海水浴場 |
| | 溝井地区 | <ul style="list-style-type: none"> ・農村環境改善センター ・北杵築小学校 ・北杵築幼稚園 ・北杵築郵便局 ・杵築オレンジ病院 | |
| | 立石地区 | <ul style="list-style-type: none"> ・立石地区公民館 ・立石小学校 ・立石保育園 ・立石郵便局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ＪＲ立石駅 |
| 工業拠点 | 市内の大規模な工業団地および大規模工業地として、杵築インターチェンジ周辺、狩宿国道213号沿い、原南工業団地、速見インターチェンジ周辺の4箇所を位置づける。 | | |
| 水産拠点 | 水産業を支える漁業基地として、奈多、美濃崎、灘手、納屋、加貫の5箇所を位置づける。 | | |
| 緑の拠点 | 市民の日常的なレクリエーションの場となる大規模な公園・緑地として、総合公園、城山公園、福祉公園、海浜公園、住吉公園、奈多公園、甲尾山公園、横岳自然公園、大分農業文化公園の9箇所を位置づける。 | | |

■将来都市構造図



(3) 将来市街地構造

中心市街地とその周辺については、狭い区域に多様な都市機能が集積することから、この区域を中心とした将来の市街地構造のあり方について示します。

都市中心拠点である中心市街地は、市街地の性質から以下の2つのエリアに区分し、それぞれの特色を活かしたまちづくりを推進します。また、各軸線を中心に商業業務施設等の集積や良好な景観の創出などを推進していきます。

【都市中心拠点エリア】

◆ 城下町エリア

「坂道の城下町」である特色を最大限に活かし、賑わいと歴史の共存する市街地づくりを推進する城下町エリアを位置づけます。

◆ 都市生活エリア

城下町エリアを取巻く地区については、都市の利便性の向上や都市基盤の充実による居住環境の向上を図り、活力のある市街地づくりを推進する都市生活エリアとして位置づけます。

【拠点】

全市的な将来都市構造で示した「産業拠点」「都市のサブ拠点」「緑の拠点」を中心市街地の主要拠点として位置づけ、拠点の特性に応じた魅力の向上を推進します。

【都市軸】

都市軸については、市街地内における機能を考慮し、以下の軸を配置します。

◆ 広域都市軸

広域的な連携を図ると共に、沿道サービス施設を中心とした市街地形成の主軸として、国道213号沿道を広域都市軸として位置づけます。

◆ 杵築都市軸

広域的な連携を図ると共に、都市中心拠点と都市のサブ拠点を結ぶ、市街地形成の主軸として、都市計画道路3.4.7田平北浜線および県道藤原杵築線を杵築都市軸として位置づけます。

◆ 歴史景観創出軸

都市計画道路の整備と併せて歴史的景観を創出し、賑わいのある商業・業務空間を形成する主軸として、都市計画道路3.4.4宗近魚町線沿道を歴史景観創出軸として位置づけます。

◆ **都市生活軸**

中心市街地内での日用品等を販売する商業地の形成を図る主軸として、都市計画道路3.4.4宗近魚町線沿道および3.4.1錦城下司線沿道を都市生活軸として位置づけます。

◆ **産業軸**

杵築インターチェンジと各産業拠点を結ぶ国道213号および都市計画道路3.4.2錦江橋祇園線、3.4.11中平前大辻線を産業軸として位置づけ、産業拠点とインターチェンジとのアクセス強化を推進します。

【水辺軸】

生き物のための緑の回廊、市街地に新鮮な空気を供給する風の道、そして市民のやすらぎの場を提供する良好な水辺空間として、八坂川、高山川を水辺軸として位置づけます。

■ 将来市街地構造図

